

独思録：「イチロー、9年連続200本安打」(9/20)

小西 秀俊

[esq-info@esquare-kamakura.net](mailto:esq-info@esquare-kamakura.net)

9月16日に鳩山内閣が船出しました。

船出を前にした9月15日朝、民主党の鳩山総理(代表)は、都内の私邸前で記者団から「どのような内閣になりそうか」と新内閣について質問を受けると、「それよりも、イチローのあの活躍はすごいじゃないですか。」と開口一番、米大リーグで史上初の9年連続シーズン200安打を達成したマリナーズのイチロー外野手を絶賛したと報道しています。

更に「世界であれだけ活躍できる選手は、見えないところでいかにしてベストを尽くそうとしているか。そこだよ。見えるところだけじゃなくて、見えないところであれだけ練習しているからこそ、ああいう成績を世界に残せる。みんなが学ぶべきところだ。」(時事通信)と語っています。

その上で、「そういう思いで組閣もやりたいし、天下に恥じない良い仕事をやらなきゃいかんと思う。」と政権運営の決意を新たにし、今回の閣僚が決定しました。

本来、今週は新政権の問題を話題にすべきですが、鳩山内閣に対する批評・批判は、これから長く長くお付き合いすることになると思いますので、鳩山総理がイチロー選手9年連続200本安打を引き合いまでして新政権運営の決意にまで及んだことに免じ、今週はイチロー選手の9年連続200本安打の大リーグ記録にお付き合い願います。

寺田寅彦のエッセイに「野球時代」というのがあります。

「明治二十年代の事である。今この思い出を書こうとしている老学生のまだ紅顔の少年であったころの話である。太平洋からまともにはげしい潮風の吹きつけるある南国の中学にレコードをとどめた有名なストライキのあらしのあった末に英国仕込みでしかも豪傑はだの新しい校長が卒業したての新学士の新職員五六人を従えて赴任すると同時にかび臭いこの田舎(いなか)の中学に急に新しい文化の風が吹き込んで来た。その新文化の最も目ざましい表象として維新時代の夢のまださめ切らなかつた生徒たちの心に強い印象と衝動を与えたものはベースボール、フットボール、クリケット、クロケーそれからポートルースなどの新遊戯であった。若く元気な生徒らの目にはどこかの別の世界から天下(あまくだ)って来たような法学士、農学士、文学士の先生たちがシャツ一つになって校庭で猛烈な練習をリードした。生徒らの目には世界が急に素量的に飛躍したように感ぜられた。そうしてさらに次にきたるべき時代への希望と憧憬(どうけい)といったようなものが封建期の子供らの頭の中に勢いよく芽ばえ始めたのであった。」

という行で始っています。

明治二十年代といえ、長い徳川政権からの政権交代の余韻覚めやらぬ時期、これから新政権が迎えるであろう活気ある時期です。

英国仕込みの政策を表に立てた宇宙人と渾名される新しい総理が、就任したての新閣僚を従えて政権運営をすると同時に、かび臭いこの霞ヶ関の官僚に向けて、新しい政治主導

の風を吹き込んでいる現在と似通っています。

その政治主導の最も目覚しい表象として、衆院総選挙の結果のまだ覚めやらぬ国民たちの心に強い印象と衝動を与えたものが、八ツ場ダム建設差し止め、高速道路無料化、日米再構築、年金改革それから障害者自立支援法廃止などの政策実行宣言です。

マニフェストで謳った政権公約の実現に向けた新しい政策の数々で、「未知との遭遇」と総理が表明したように、鳩山政権を選んだ国民も期待と不安が入り混じって今後の成果を見守っています。

中には郵政・金融担当相のちょっと危なげな閣僚もいらっしゃいますが、イチローのように、見えないところでも頑張り、官僚たちの力を十分に引き出して「見えないところでも国民のために政策を真剣に考えているからこそ、友愛に満ちた社会を国民に残せる。」と言われるようになって欲しいものです。



スポニチ：「鳩山代表がイチロー絶賛！そい思いで組閣も...」(9/15)

民主党の鳩山由紀夫代表は15日朝、米大リーグで史上初の9年連続200安打を達成したマリナーズのイチロー外野手の活躍を絶賛するとともに、鳩山新政権の組閣に向けた決意を表明した。

鳩山氏は、都内の自宅前で記者団から内閣の顔触れを問われ、「それよりもイチローの活躍はすごいじゃないですか」と返答。「見えないところでもあれだけ練習をしているからこそ、いい成績を世界に残せることをみんな学ぶべきだ。そういう思いで組閣もやりたい」と自分に言い聞かせるように語った。



< 寺田寅彦 (1878-1935) >

随筆家、地球物理学者。東京市麹町区（現在の千代田区）生まれ。東京帝国大学卒。

航空研究所、理化学研究所、地震研究所、東京帝国大学（教授）などに所属、大正12年（1923）45才の時、関東大震災に遭遇し、火災旋風などの調査に従事する。



「天災は忘れた頃に来る」という言葉を言い出したのは寺田寅彦であるといわれている。漱石の門下生でもあり、吉村冬彦の筆名で数多くの随筆を書いている。

作品に『漫画と科学』『科学と文学』『西鶴と科学』『珈琲哲学序説』『神話と地球物理学』などがある。

### 春秋：「未到の領域を切り開く」(9/15)

ラーメンの食べ歩きが好きな友人が、昨今の味の潮流を嘆いていた。どの店も塩分や油や調味料が強くなりすぎて、本来のスープのうまみを感じられなくなった。舌先の印象を競うあまり、濃い味に向かって一直線に走っているようだ。

人は誰でも違う味、新しい味を求める。しょうゆ、みそ、塩という型にはまったメニューでは、ほかの店と違いは出せない。まず考えるのが味の強さだろう。「ガツン」「ドカン」といった宣伝文句とともに目新しい味が次々と登場する。「食べた」という、その場の達成感が高まるが、人気が続くとは限らない。

9年連続 200 本安打を達成したイチロー選手は「型」の人だ。同じ道順で運転し、同じ練習をこなし、同じカレーを食べる。時には気分を変えたい日もあるだろう。だが、常に自分がベストの状態であると自覚するには完ぺきな準備が必要になる。神経質なまでに型を守ることで、未到の領域を切り開いてきた。

小学6年の作文で「ぼくの夢は一流のプロ野球選手になることです」と書いた。しかも「必ずなれる」と断言している。理由は、友達と遊ぶ時間がないほど練習をしているから。過程の先に結果を見ていたのだろう。ドカンと飛ぶホームランは見る者の気分を晴らす。積み上がる安打は、頑張る勇気を人に与える。

< ラーメン > <http://www.raumen.co.jp/home/>

中国の料理を起源として、日本の中華料理で発展してきたとされる。長い歴史の中で、現在の日本のラーメンは中国に元々あった拉麺の麺料理文化とは異なる日本独特の食文化に進化を遂げており、中国・台湾においても日本食として認知されている。



「ラーメン」の語源は、中国北部の麺の一種「拉麺(ラーミエン)」という説がある。中国語の「拉」とは「引っ張る」という意味で、拉麺は蕎麦やうどんのように切り分けて長細い形にするのではなく、手で引っ張り麺の形を形成する技法で作られる。

現代ではラーメンは通常カタカナで表記され、東アジア圏では日本拉麺、日式拉麺と呼ばれている。日本においては、中華そばあるいは支那そばなどの別名で呼ばれる場合もある。

### 天声人語：「ベープ・ルース以前」(9/15)

その一打以上に、当人の感想が待ち遠しかった。「解放されましたね。人の記録との戦いにピリオドを打てた」。重圧をしのばせるコメントに、少しほっとした。

雨空のテキサスで、イチロー選手が9年連続200安打の大リーグ記録を残した。8年連続で並んでいたのは明治時代の選手である。三つの世紀にまたがるベースボールの歴史を、細身の日本人が何度も塗り替え、彼ならではの語録が「正史」として刻まれていく。

古いファンは「ベープ・ルース以前」を思い起こすという。腕力よりバットを操る技術、スピード、そして頭を競う野球だ。ポテポテの内野ゴロがクロスプレーになる。歴史的な安打は、3バウンド目をすくい上げた遊撃手が送球をあきらめた。

打率より安打数にこだわる。3割を守ろうとすればつらい打席も、ヒットを1本増やしたいと思えば楽しめると。「楽しみ」を重ねての200本ながら、毎年となると大きなケガや不調は許されない。例えば、編み物をしながらの綱渡り。そんな苦行を思う。

「僕は天才ではありません。なぜなら自分がどうしてヒットを打てるか説明できるからです」「驚かされているならまだまだ。驚かれないようになりたい」。刻まれた言葉の数々は近寄りがたくもある。

50歳で惜しまれながら辞めるのが夢、と聞いた。足と目が許す限り、このまま前だけ見て進むのだろう。なにしろ「現役のうちには過去を懐かしんではいけません」という至言の主だ。「よし、私も」とは思わない。あやかる気がなえるほどの高みである。

<ベープ・ルース(1895-194)>

メジャーリーグの選手。メリーランド州サウス・ボルティモア生まれ。アメリカ合衆国の国民的なヒーロー。

最初にアメリカ野球殿堂入りを果たした5人の中の1人で、ホームラン50本以上のシーズン記録を初めて立てた選手。

1927年に記録したシーズン60ホームランの記録は、1961年にロジャー・マリスによって破られるまで34年間、生涯通算ホームラン714本は、1974年にハンク・アーロンに破られるまでの39年間、メジャーリーグの頂上であった。

豪快な本塁打の連発によりベースボールを最大の人気スポーツにした事で“アメリカ球界最大の巨人の1人”と評されている。



### 編集手帳：「天上の星を手に」(9/15)

努力と向上の人、ファウスト博士を評して悪魔メフィストが言う。あいつは天上の一番美しい星を取ろうとしているかと思えば、地上の一番ふかい楽しみをきわめようとする。そして近いものも遠いものも、あいつのわきかえる胸を満足させない。

ゲーテの戯曲「ファウスト」の一節は、この人のためにあったのかと思うときがある。マリナーズのイチロー選手(35)が大リーグ史上で初めての9年連続200安打の偉業を成し遂げた。

大リーグ年間最多安打(262本)といい、日米通算3000本安打といい、「天上の星」を手に入れて満ち足りた顔をする事もない。ほっと安堵(あんど)の色を見せるのがせいぜいで、それもつかの間のこと、気がつけば修験者のように次の山坂を歩き出している。

記録樹立の200安打目は足を生かした内野安打で飾った。野球の面白さは本塁打だけでないことを、バットで語りつづける人でもある。星のコレクションはまだまだ増えるに違いない。

今宵(こよい)もどこかの夜空の下、生まれたての美しい星を仰いで“未来のイチロー”を夢みて、一心にバットを振る少年がいるだろう。

<ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ(1749-1832)>

ドイツを代表する文豪。ドイツ中部フランクフルト・アム・マイン生まれ。

ライプツィヒ、シュトラスブルクで学び、この遊学期にヘルダーと交友。恋愛体験をもとにして叙情詩を発表、その後1773年に戯曲『ゲッツ』、翌年に『若きヴェルテルの悩み』で文壇の脚光を浴びる。



その一方で、1775年にヴァイマル公カール・アウグストに招かれてその宮廷に仕え、政務を担当する廷臣となり、同時に解剖や地質、光学などの研究も行い、顎間骨の発見や色彩論などは著名。

1786年から2年間のイタリア旅行の後、文学活動に専心し、フランス革命に際しては2度の対仏戦争に従軍した。

その他『エグモント』『ヘルマンとドロテア』『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』『ヘルマンとドロテア』『ファウスト』などを執筆、シラーとともにドイツ文学における古典主義時代を築く。

### 余録：「イチロー選手の挑戦」(9/15)

本塁打王ベーブ・ルースは「生まれながらの好打者とはカップのことをいう」と語っている。カップとは大リーグ24年間の通算打率3割6分7厘の記録に輝く球聖タイ・カップのことだ。ルースとは不仲で知られてきた。

そのカップは「生まれながらの好打者はホーンズビーだ」という。ロジャース・ホーンズビーも20年代の天才打者で、シーズン打率4割2分4厘の記録をもつ。だが彼は「偉大な打者は作られるもので、生まれつきのものではない」という。

大リーグ24年間で4256安打の記録をもつピート・ローズ氏はホーンズビーに賛成を示して言う。「いい打者は頭を使い、体を動かし、練習をたくさんする」。大リーグ史に輝く天才でも「生来の打者」を自称する選手はさすがにいない。

そんな大打者の栄光のドラマが織りなす大リーグの記録をまた一つイチロー選手が塗り替えた。9年連続の200安打の大リーグ記録はイチロー選手らしい遊撃内野安打で達成された。「(記録との)争いから解放された」とは、その苦しかった「争い」をうかがわせるコメントだ。

シーズン開幕時の胃かいよう、さらに先月の左足故障により合計16試合を欠場した今季である。記録達成を危ぶむ声もあった。だがその逆境にあって、誰よりも早く球場入りしてのストレッチをはじめ体調の自己管理は徹底を極めたという。

来月は36歳となるイチロー選手である。だがその天才と努力の交差するところに生まれる求道者のようなたたずまいは、むしろこの試練のシーズンを通して一段と奥行きを増したように見える。大リーグにはまだまだその挑戦を待つ未踏の高峰がそびえている。

#### < タイラス・カップ (1886-1961) >

メジャーリーグの野球選手である。アメリカ合衆国ジョージア州出身。1905年、デトロイト・タイガースと契約、この年の成績は打率.240で終わったが、2年目の打率は.316という好成績を残し、翌年には.350で首位打者を獲得、以降、24年間の現役生活最後に至るまで打率.323を下回る事はなかった。1911年には自身最高の打率.420を達成している。

日本では「球聖」と冠され、アメリカでは「メジャー史上、最も偉大かつ最も嫌われた選手」と言われている。



#### < ロジャース・ホーンズビー (1896-1963) >

メジャーリーグの選手、監督。テキサス州ウィンターズ生まれ。

1915年シーズン終盤に、セントルイス・カーディナルスに入団、1916年の打率は.313、15本もの三塁打を放ち、長打率.444、翌1917年に打率は.327、三塁打17本はリーグ最多となり、リーグトップの長打率.484の成績を残し、1922年、打率4割、打点150打点に届き、42本塁打を放ち、



打撃三冠の成績に輝く。

1924年には打率.424、1925年には2年連続となる打率4割超えを達成、143打点と39本の本塁打で2度目の打撃三冠を獲得、テッド・ウィリアムズとともにメジャーリーグで打撃三冠王を2度獲得した選手となる。

<ピート・ローズ(1941-) >

メジャーリーグの選手。オハイオ州シンシナティ出身。

メジャーリーグで1963年から1986年までプレイし、MLB史上最多試合出場(3562試合)と最多安打(4256安打)の記録を持つ。

1960年、地元の球団であるシンシナティ・レッズに入団。1963年にメジャーデビュー、1968年、1969年には2年連続で首位打者、1973年には3度目の首位打者、1978年には史上最年少での通算3000本安打を達成。1978年オフに、フィラデルフィア・フィリーズに移籍、1980年にはフィリーズ史上初のワールドシリーズ制覇に貢献。1984年、モントリオール・エクスポズに移籍し史上2人目となる通算4000本安打を達成。

